

THE DEATH
AND LIFE
OF GREAT
AMERICAN
CITIES
Jane Jacobs

アメリカ大都市の
死と生

第Ⅰ部 都市の独特の性質

第2章 歩道の使い道—治安

第3章 歩道の使い道—ふれあい

第4章 歩道の使い道—子供たちをとけこませる

第5章 近隣公園の使い道

第6章 都市近隣の使い道

第Ⅱ部 都市の多様性の条件

第Ⅲ部 衰退と再生をもたらす力

第Ⅳ部 ちがった方策

公園のふるまい

- 公園はどんな役割であれ自動的に果たさない。
→ 価値を安定させたり、近隣や地区を安定化させたりする ✕

- 例
- ① リッテンハウス広場・・・愛されて成功して多用される
 - ② フランクリン広場・・・みすぼらしい利用者（犯罪 ✕）
 - ③ ワシントン広場・・・犯罪の巣窟
→ 都市公園の変わりやすい特徴

活気ある公園とそうでない公園の違い

活気ある公園・・・隣接する利用における機能の物理的な多様性、利用者**スケジュール**の**多様性**

活気のない公園・・・主要な利用者はほぼ毎日同じ時間割

→活気づけるには、広範な**機能のミックス**が必要。
(例外) 浮浪者

人気のない公園はどうするべきか

Q.位置、大きさ、形の面での不一致などでうまく機能しなかった公園をどうするべきか。

A.十分に小さい場合・・・目に心地良いものとなる。

人々が通行しない場所にある場合・・・目的材に頼る。

公園のあり方

人々が魅力的だと思える近隣

→大きな魅力を追加する。

魅力的ではないと思える近隣

→公園によってさらに悪化（退屈さ、危険、空虚さをプラス）

都市が利用や利用者の日常的な多様性を街路でうまく混ぜるほど、無意識に公園を活気づけて支援。

疑問

- ・公園は必要？

子供は街路で遊びたい（第4章）

成功例は少なく、失敗すれば浮浪者公園や犯罪の巣窟になる。

目的材のある公園を作るならそれに特化した施設を作った方が良いのでは？